

県内景気は緩やかに拡大している

海邦総研県内景気動向調査(2016 年 7-9 月実績、10-12 月見通し)

県内の各種経済指標や海外需要の活発さを背景に、県内景気は好調となっており、今期（7-9 月期）の県内企業の景況判断 BSI は 23.5 と「上昇」超となっていることなどから、「県内景気は緩やかに拡大している」。

来期（10-12 月期）の見通しとしては、県内、県外、海外需要への期待などから、景気は引き続き緩やかな拡大が続くと見込まれる。ただ、人手不足が各企業において深刻な課題となっていることから今後の行方を注視する必要がある。

～業種別概要～

観光関連

観光関連は好調、海外市場はターゲットにより明暗が分かれる

観光客が増加していることから、全体的に好調となっている。外国客においては、団体旅行に対するニーズが減少し、個人旅行へシフトしている状況。ただ、業界の活況に伴い人手不足といった問題も挙がっている。

建設・不動産 関連

官需、民需ともに好調

官需は好調が持続。民需では、マンション販売で新築・中古ともに依然、好調な状況が続いている。アパートは建設需要だけでなく、投資物件として活発に売買しているケースも見られる。一方、進出しできた本土事業者との競争激化を懸念する声もある。

食品・消費・ サービス関連

個人消費は観光客増に支えられ好調

外国人観光客等の海外需要を中心に県内客、県外客の需要も好調に推移した。特に飲食サービス業の多くの事業所において、外国人観光客の恩恵を受けている。ただ、安定的な事業経営に向けては人材確保がカギとなりそうだ。

～資本金別・地域別概要～

資本金別・現状判断と見通し

今期の景況判断 BSI は、すべてのカテゴリーにおいて「上昇」超となっている。特に 1 億円以上の企業の BSI は 40.0 と最も高くなっている。来期（10-12 月期）については、全てのカテゴリーで「上昇」が「下降」を上回っている。

地域別・現状判断と見通し

今期の景況判断 BSI は、すべての地域で「上昇」超となっている。最も BSI が高い地域は離島地区で 35.1 となっている。来期(10-12 月期)の見通しとしては、すべての地域で「上昇」超となっている。

県内企業の景況判断 BSI

■現状と見通し

【実績（2016 年 7-9 月期）】

●業種の景況判断 BSI（実績）は、23.5 と「上昇」超

【見通し（2016 年 10-12 月期）】

●全業種の景況判断 BSI（見通し）は、17.2 と「上昇」超

■業種別結果

【実績（2016 年 7-9 月期）】

●すべての業種で「上昇」超

【見通し（2016 年 10-12 月期）】

●不動産業等（-4.2）を除いて、それ以外の業種で「上昇」超の見通しとなっている

企業の景況判断 BSI(前期比「上昇」・「下降」社数構成比)

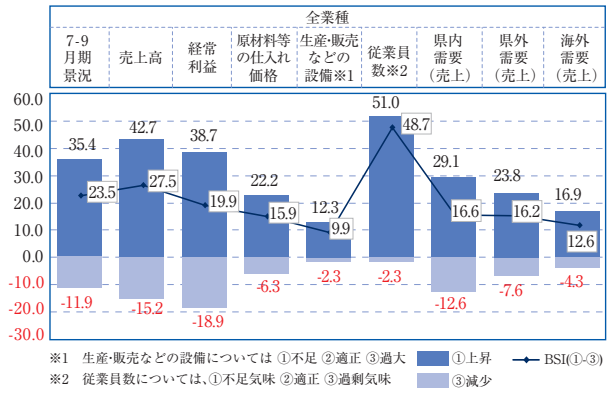
		2016 年			
		4-6 月期	7-9 月期		10-12 月期
		前回調査 実績	前回調査 見通し	今回調査 実績	今回 見通し
全業種 BSI	建設業	-3.0	19.5	23.5	17.2
	製造業	-5.4	29.7	18.2	30.3
	情報通信業	-7.7	23.1	2.7	29.7
	卸売・小売業	-5.9	11.8	28.6	35.7
	不動産業等	-23.6	5.6	22.2	12.7
	旅行・宿泊業	26.7	6.7	12.5	-4.2
	飲食サービス業	-3.0	42.4	53.3	6.7
	医療・福祉	-4.0	40.0	26.3	21.1
	その他のサービス業	4.3	0.0	8.3	25.0
資本金別	1,000 万円未満	7.1	22.9	27.9	14.7
	1,000 万円以上 5,000 万円未満	0.0	19.8	27.1	6.8
	5,000 万円以上 1 億円未満	-5.7	18.9	22.5	23.2
	1 億円以上	-5.9	35.3	25.6	23.3
		2.5	7.5	40.0	25.0
従業員数別	10 人未満	-2.7	15.1	7.8	0.0
	10 人以上 20 人未満	3.8	28.3	32.0	14.0
	20 人以上 50 人未満	-12.1	13.2	25.9	24.7
	50 人以上 100 人未満	-1.9	28.3	25.5	34.0
	100 人以上	6.7	24.4	32.6	18.6
地域別	本島北部地区	-5.6	13.9	25.0	3.6
	本島中部地区	4.7	19.8	21.2	15.9
	本島南部地区	-4.5	27.3	12.2	41.5
	那覇地区	-13.7	21.1	27.8	20.3
	離島地区	4.4	15.6	35.1	0.0

全業種の結果

■7-9 月期の現状（4-6 月比較）BSI 全業種

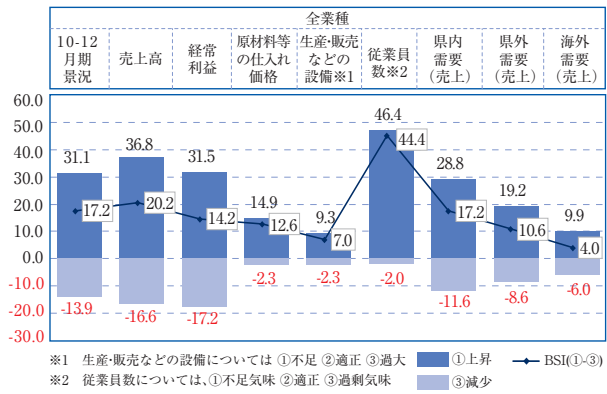
7-9 月期景況 BSI は 23.5 で、「上昇」超となっている。全ての項目において、「上昇」超となっている。従業員数（48.7）は大幅に「不足気味」超となっている。県内需要（16.6）、県外需要（16.2）、海外需要（12.6）ともに好調となっている。

4-6 月景況判断 BSI(実績)は、-3.0 と「上昇」よりも「下降」超であったことから、今期の BSI は改善している。



■10-12 月期の見通し（7-9 月比較）BSI 全業種

10-12 月期景況見通しは 17.2 で、「上昇」超となっている。全ての項目において、「上昇」超となっている。従業員数（44.4）は「不足気味」超が続く見通しとなっている。原材料等の仕入れ価格（12.6）も「上昇」超の見通しとなっている。県内需要（17.2）、県外需要（10.6）、海外需要（4.0）ともに「上昇」超の見通しとなっている。今期の BSI(23.5)よりは若干、下回る見込みである。

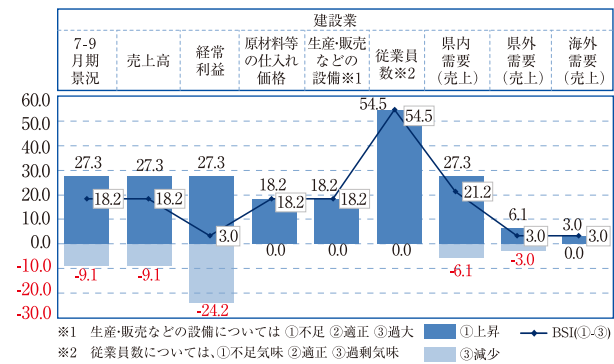


■業種別 7-9 月期の現状と 10-12 月期見通し

【建設業】

7-9 月期の景況は 18.2 で、「上昇」超となっている。「下降」超の回答項目はなかった。ほとんどの項目において「上昇」超となっている。従業員数（54.5）は「不足気味」が大きく上回っている。「上昇」超幅が大きかったのは、県内需要（21.2）、売上高（18.2）、原材料等の仕入れ価格（18.2）、生産・販売などの設備（18.2）となっている。

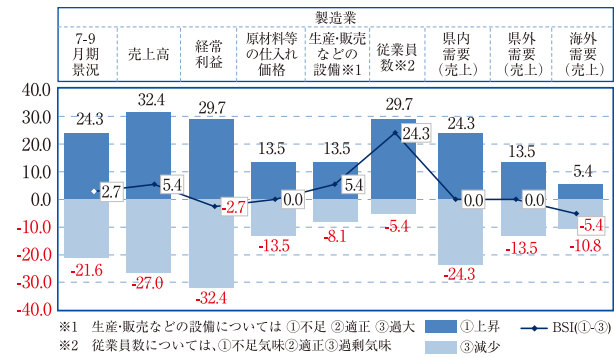
10-12 月期の景況見通しは 30.3 で「上昇」超となっている。「下降」超の回答項目はなかった。ほとんどの項目において「上昇」超となる見通しとなっている。従業員数（60.6）は「不足気味」超が続くとの見通しとなっている。原材料等の仕入れ価格（15.2）も「上昇」超の見通しとなっている。売上高（51.5）、経常利益（36.4）、県内需要（36.4）の「上昇」超幅が大きい。



【製造業】

7-9 月期の景況は 2.7 で、「上昇」超となっている。売上高(5.4)は「上昇」超だが、経常利益(-2.7)は「下降」超となっている。従業員数(24.3)は「不足気味」超となっている。

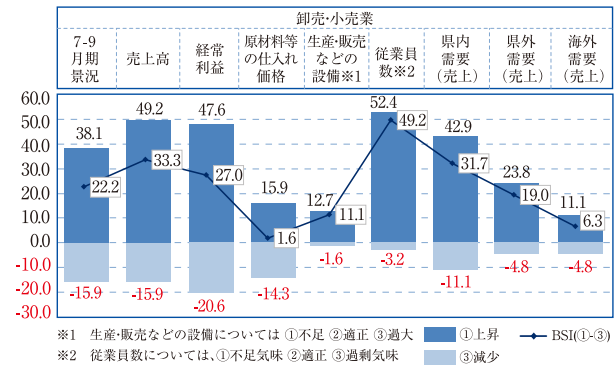
10-12 月期の景況見通しは 29.7 で、「上昇」超となっている。特に売上高(21.6)、経常利益(13.5)は「上昇」が「下降」を上回る見通しとなっている。従業員数(24.3)は「不足気味」超との見通しとなっている。県内需要(21.6)、県外需要(21.6)、海外需要(2.7)ともに「上昇」超の見通しとなっている。



【卸売・小売業】

7-9 月期の景況は 22.2 となっており、「上昇」超となっている。売上高(33.3)、経常利益(27.0)ともに「上昇」超となっている。県内需要(31.7)、県外需要(19.0)、海外需要(6.3)がそれぞれ好調で景況を押し上げたとみられる。従業員数(49.2)は大きく「不足気味」超となっている。

10-12 月期の景況見通しは 12.7 で、「上昇」超となっている。ほとんどの項目において、「上昇」超となる見通しで

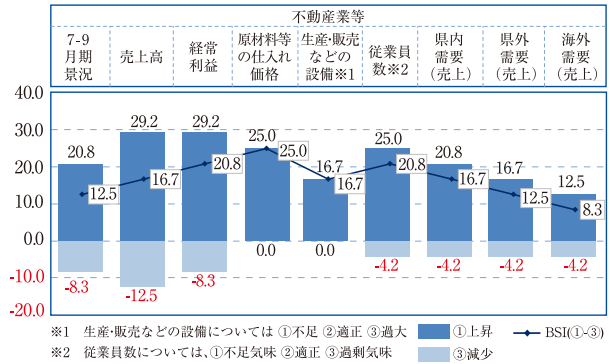


ある。原材料等の仕入れ価格(12.7)も「上昇」超の見通しとなっている。従業員数(34.9)も「不足気味」超が続くとの見通しとなっている。

【不動産業】

7-9 月期の景況は 12.5 で「上昇」超となっている。売上高(16.7)、経常利益(20.8)ともに「上昇」超となっている。原材料等の仕入れ価格(25.0)が大きく「上昇」超となっており、従業員数(20.8)も「上昇」超幅が大きい。商品・サービスの販売価格(16.7)、県内需要(16.7)、県外需要(12.5)もそれぞれ「上昇」超となっている。

10-12 月期の景況見通しは -4.2 で、「下降」超となっている。県外需要が -4.2 となっており、県外需要の減退が懸念されている。

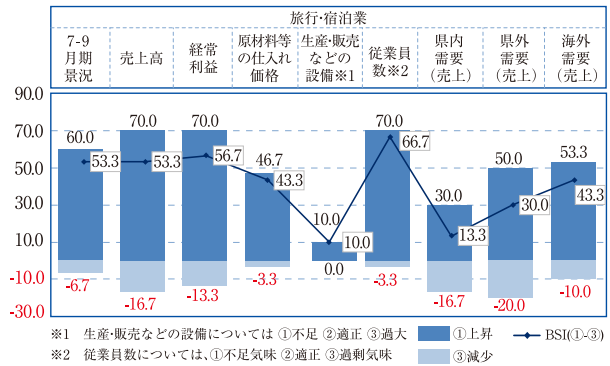


【旅行・宿泊業】

7-9 月期の景況は 53.3 で、大きく「上昇」超となっている。売上高(53.3)、経常利益(56.7)もそれぞれ大幅な「上昇」超となっている。従業員数(66.7)は「不足気味」超が大きく上回っている。商品・サービスの販売価格(30.0)も「上昇」超。

そのほか海外需要(43.3)が大幅な「上昇」超。県内需要(13.3)、県外需要(30.0)も好調となっている。

10-12 月期の景況見通しは 6.7 で「上昇」超となっている。ただ、売上高(-10.0)、経常利益(-3.3)となっている。従業員数(66.7)は大幅に「不足気味」超が続くとの見通しとなっている。県内需要(3.3)、県外需要(20.0)、海外需要(10.0)ともに「上昇」超の見通しとなっている。



観光関連概況

観光関連は、観光客増加を背景に好調に推移している。観光関連(旅行・宿泊業)の 7-9 月期における景況判断 BSI は 53.3 で高水準となっている。業界の活況に伴い、人手不足の問題も挙がっている。

旅行会社や宿泊施設では当初、予約の出足の遅さが懸念されていたが、料金調整による集客の奏功や、台風によるキャンセル発生がほとんどみられなかったことなどで好業績となっている。レンタカーも個人客の増加により高稼働で、ダイビングショップも好天が続いたことでツアー催行率が高かった。

外国客においては、個人旅行へ振れている状況があるとみられ、外国団体を手配する旅行会社やバス会社で業績低下がみられる。対して個人客を対象とするレンタカーやマリンスービスでは、外国客への売上も好調である。FIT においては、旅行会社を介さず、個人でLCCと宿泊、レンタカーを予約するケースが増加しているとみられ、外国個人向けのホテルパックなどの商品が売れにくい状況もあるようだ。

今後の見通しについて、来期(10-12 月期)の景況判断は 6.7 となっており、引き続き好況が継続するとみられる。

建設・不動産関連概況

建設関連は官需、民需ともに好調が持続している。建設業の 7-9 月期の企業の景況判断 BSI は 4-6 月期のマイナスからプラスに転じた。売り上げや利益などの上昇は続いているものの、従業員数が不足気味と感じている事業者は多く、人手不足の状況が続いている。

民需では、マンション販売で新築・中古ともに依然、好調な状況が続いている。特に、中古物件は立地条件次第では築 10 年でも販売当時の金額で売買されるケースもある。物件価格が上昇すると考える消費者も少なくなく、中古でも条件が良ければ「今が買い時」と考え、購入するケースもあるようだ。好調な状況を危惧する意見もあるが、当面はこの状況が続くとする意見が多い。

不動産関連事業者の今期の景況判断 BSI もプラスであった。アパートの建設需要が高だけでなく、一部の事業者では投資物件としてアパートを活発に売買しているケースも見られる。また、中古不動産を住居や収益物件にリノベートする設計事務所の需要も増えており、不動産売買における新しい動きが出始めてきた。

来期(7-9 月期)の景況判断見通しは建設業がプラス、不動産業がマイナスとなっている。沖縄の不動産市場を目当てに本土事業者の参入が続いていることから、本土事業者による市場の奪い合い懸念をしているようだ。

食品・消費・サービス関連概況

卸売・小売業、飲食サービス業、その他のサービス業など県内主要なサービス業の 7-9 月期の企業の景況判断 BSI はすべての業種でプラスとなっている。外国人観光客等の海外需要を中心に県内容、県外客の需要も好調に推移した。特に飲食サービス業においては多くの事業所において、外国人観光客の恩恵を受けている。また、特に中小規模の事業所においては、大手企業との安売り競争をさけ、ターゲットを絞った高付加価値の商品を販売することで、収益の確保に結びつける事業者が多くなってきている。いかに付加価値の高い魅力的な商品・サービスを提供できるかどうか、売上確保に向けてカギとなりそうだ。

サービス業全般において人手不足を感じる事業所が多くっており、今後の安定的な事業経営に向けては人材確保が重要なポイントとなっている。人材確保に向け、給与のアップ、正社員化等、事業者ごとに各種取組が見られる。

来期(10-12 月期)の見通しとしては、各業種とも県内、県外、海外からの需要も増加すると見ており、景況判断 BSI はプラスとなっている。ただ、人材不足、原材料価格等の増加は今後の各事業所の景況にも影響を与えるとみられ注視する必要がある。

※同調査結果については、[海邦総研 HP](#) で公開しております。
ご興味のある方は、[ご覧ください](#)。

※調査概要は以下のとおりである。

●調査目的:沖縄県内企業の経営の実態と見通しを把握し、今後の各企業の経営の参考情報として提供することを目的として実施した。本調査は、各種経済関連指標だけでなく、県内各事業所へのアンケートおよびヒアリング等を実施し、県内景気の現状と見通しについて整理を行った。

●調査対象:原則、県内に本社所在地があり、従業員 5 人以上の事業所が対象

●回答状況:333 事業所

なお、本調査は、以下 2 点の特徴がある。

調査対象を、従業員数 5 人以上の企業としており、比較的小規模な事業者における景況も反映されたものとなっている。

本調査においては、県内企業の各種 BSI(Business Survey Index)を算出した。算出方法は、以下の通り。

BSI=(「上昇」と回答した企業構成比)-(「下降」と回答した企業構成比)

BSI は景気の現状や先行きを「上昇」「下降」といった前期と変化した方向で判断する指標である。BSI がプラスであれば、企業の景況や各種項目が前期と比較して好調であるということであり、BSI がマイナスであれば、景況や各種項目が前期と比較して不調と考えられる。